



ご挨拶 ～国立大学附属病院海外実務研修(2017/2/20～2/25)報告します～

技師長 堀田 多恵子

平素より、臨床検査にご理解をいただき感謝申し上げます。

今年も4月に新入スタッフを迎えることができました。これから1年をかけて全分野を業務経験して参ります。どうぞよろしくお願い致します。また、今年は定期的をお願いしています、検査部アンケートの実施を計画しております。検査部に対するご意見やご要望を頂き、今後に生かして参りますので、その折にはご協力の程よろしくお願い致します。また、本年度からの新しい試みとして、検査部セミナーを定期的を開催したいと思っております。採血管の選択や臨床検査のピットホール、結果の解釈など臨床検査からの情報発信を試みますのでどうぞご参加ください。

さて、話は変わりますが、おりしも本院のJMIP(外国人患者受け入れ医療機関認証制度)受審直後の2月に、アジアのメディカルツーリズムの現場を見る機会を得ましたので、この紙面を利用して報告させていただきたいと思えます。どのような経緯でそのようなことになったのかと申しますと全国国立大学病院長会議が非医師病院職員(看護師、薬剤師、診療放射線技師、臨床検査技師、管理栄養士等のコメディカルや事務職員)を海外研修させる試みに乗せていただいたからです。派遣先は台湾。受入れてくださった機関は林口長庚(チョウコウ)記念医院、台安(タイアン)医院、国立成功大学附設医院、高雄(カオシュン)医学大学と輔仁(ボジン)大学外国語文学院の4つの医療機関と医療通訳のスペシャリストを養成する外語大学でした。台湾には政府が運営している全民健康保険:単一の強制社会保険プログラムがあり、加えて混合診療・私費診療も認められています。



国際医療センターにて

長庚記念医院は創立40年余りですが、グループ7つの病院で病床数1万を超え、年間手術数が17万件という巨大医療グループです。今回見学した林口の病院はその中でも最も大規模(3385床)で小児病院からリハビリテーション病院、老人ホームまで併設しており、日本の医療機関の機能分化と役割分担と全く異なる、複合医療村の体を成していました。ここに受診した外国人は21,275人(2016年)。林口医院の国際医療センターは診療予約、診療相談、治療計画、移動や宿泊手配、特に香港、マカオ、中国に対しては、患者本人に代わってビザ手続きを代行するサービスの提供も行っており、重症患者も円滑かつ迅速に搬送可能です。一方、中規模の市中病院である台安医院国際医療センターは“言語の壁を感じさせないサービスの提供”により14,000人/年(うち60%以上が日本人)に選ばれており、保険会社や保険機構との連携によるキャッシュレス・医療費後払いも外国人患者にとって安心・便利な優れた制度だと思われました。これらに対して国立成功大学附設医院、高雄医学大学の2つの大学病院は国際合作(国際協力・救援)の国際貢献の色合いが濃い国際医療センターを運営していました。これらの医療機関はいずれも国際認証(JCI: Joint Commission International)を取得し、VIP用特別室(病棟)のハードを整備しつつ、検査・診療は既存部門を使用するので国際医療センターを中心にコメディカルの外国語及び異文化教育に取り組んで、海外に住む中国人を始め、アジアの多くの国々から患者を積極的に受け入れていました。質の高い医療サービスを受けることを目的として、わざわざ他国へ行く外国人を受け入れるのですから、説明と同意、相互理解に言語の違いは大きな障壁となります。輔仁大学外国語文学院の言語学部日本語学科の医療翻訳・通訳専攻コースの授業を見ましたが、正確な通訳に留まらず、病気・検査・治療についての最新知識、保険・法律の最新知識や的確な表現をとことん追求しながら、患者さんに寄り添う態度を学んでいました。

このような機会を与えていただいた石橋病院長、ご推薦いただいた大屋前医療技術部長、不在をお許しいただいた康検査部長、検査部の皆さんに心より感謝申し上げます。この経験を何らかの形で生かしたいと思っております。

《今号の紙面》

技師長より挨拶……p.1

韓国京畿道臨床病理士会学会に参加して……p.2

鉄分検査室……p.3-6

山行知(さんこうち)……p.7-9

新人紹介……p.10-11

検査通報・編集後記……p.12





韓国京畿道臨床病理士会学会に参加して

上田 沙央理

平成29年5月13日から15日にかけて、京畿道(キョンギド)学術大会に参加するため韓国へ行って参りました。参加するに至った経緯としては、平成28年6月に開催されました第26回福岡県医学検査学会で最優秀演題賞に選んでいただき、今回英語で発表することになりました。初めての英語での発表、異国での発表だったため当日まで実感が湧きませんでした。京畿道臨床病理士会の皆さまが温かく迎えてくださり、程よい緊張感のもと無事発表を終えることができました。発表では先生から質問をいただき、その後の懇親会でも発表内容について京畿道の技師さんが積極的に話しかけてくださり、興味を持ってもらえたことが何より嬉しかったです。韓国語はおろか片言の英語しか話せない私の発言を一生懸命理解しようと試みてくださり、国際担当の技師さんや英語が話せる方に助けられながら、どうかコミュニケーションを図ることができました。京畿道は韓国において最も検査技師が多い地域であると同いしましたが、海外の検査技師の方と意見交換を行う良い機会になったと考えています。



福岡県臨床衛生検査技師会の皆さまと学会会場にて

学会発表が1日目に終了したため、残りの2日間は美味しい韓国料理と観光を楽しませていただきました。トリックアイ美術館、民俗村、スウォン城などを観光し、検査技師兼京畿道議会議長が経営される病院にも訪問させていただきました。検査技師として病院を経営することが日本では珍しいため驚きましたが、1人の医師と数人の看護師が約80人の入院患者を診ている老人ホームのような施設であると同いしました。民俗村では韓国の民俗文化に触れることができ、農楽として知られる豊作を祈願した踊りや綱渡り、馬上武芸、伝統婚礼式などの伝統公演を見ることができました。広い敷地の中に多くの施設があり、興味深いイベントも数多く行われていたため、民俗村で丸一日過ごせそうな印象を受けました。



検査技師兼京畿道議会議長が経営される病院にて



民俗村での農楽



スウォンの焼肉

韓国料理はキムチ、チヂミ、クッパ、カルビなどを堪能し、スウォンで1番有名な焼肉店にも連れて行っていただきました。食べきれないほどたくさんの料理が毎回食卓に並び、様々な料理を味わうことができ幸せを感じました。3日間の滞在はあっという間に過ぎましたが、中身の濃い充実した時間を過ごすことができたと感じています。

英語での抄録・スライド資料作成においては多くの時間を費やしましたが、康先生、内海先生、堀田技師長、検査部の皆さまに助けをいただきながら無事に終えることができました。中でも内海先生には大変お世話になり、心から感謝致します。今回とても貴重な経験をさせていただきましたので、この経験を日々の業務に生かせるよう励みたいです。



平成23年(2011)3月11日14時46分発生の東日本大震災から今年3月11日で6年の時が流れた。震災の年の4月に小学校に入学した児童は、今年中学生になった。

しかしながら仮設住宅暮らしの人々はまだまだたくさんいる。被災鉄道の復旧もまだ現在進行形である。

昨年末平成28年(2016)12月10日に常磐線相馬・浜吉田間約23.2kmが5年9ヶ月ぶりに運転再開した。駒ヶ嶺(こまがみね)、新地、坂元、山下の4駅が営業を再開した。



ダイヤ改正ポスター

☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆

東日本大震災における鉄道の被災状況で最初に映像が飛び込んできたのは、常磐線新地駅の空撮映像であった。跨線橋の柱がぐんにやりと曲がり、その近くに4両編成の電車がくの字になって横たわっている衝撃的な映像であった。乗客や乗務員たちはいったいどうなったのかは、報じられなかった。その後も続報はなかった。ようやく何が起こっていたのかの全体像を知ったのは半年以上経ってからだった。

E721系4両編成の仙台13時47分発普通原ノ町行き上り244Mは、定刻14時37分着のところ10分程遅れて新地駅に到着した。ドアが閉まり発車しようとしたところで震度6強の地震が襲ってきた。列車は激しく揺れた。

地震がおさまり被害状況の確認のため運転士がホームに降りると、ホームに亀裂が入り、トイレは傾いていた。跨線橋を渡り駅事務室に行くが人気はなく室内はもので散乱していた。列車に戻り停電していたためパンタグラフを下げ、バッテリーを切り待機した。

たまたまこの列車には警察学校を卒業したばかりで任地の相馬署へ向かう2人の警察官が乗り合わせていた。津波情報を知った2人の警察官は乗客を新地駅から1kmほど離れた内陸側の新地役場に避難させることを決断し身分を明かし乗務員に車内放送で駅前駐車場に集合するよう伝えるようたのんだ。2人の警察官が約40人の乗客の列の先頭と最後尾につけて避難誘導を行った。警察学校では災害時の訓練もしておりそれが役立った。本来は乗客の避難誘導は乗務員の任務ながら輸送指令との連絡が取れず運転手と2人の車掌の計3人の乗務員は列車監視のため列車にとどまった。

これら乗客の中で足の不自由な高齢女性が「駅に残る。」と避難を拒んだ。新地の一つ手前の坂元駅で下車するところ寝過ごし新地まで乗車していたのだった。携帯電話で家族に連絡し迎えの車が来ることになっていた。その高齢女性を何とか説得し、最後尾として300m程歩き始めたところで地鳴りがし、振り返ると津波が新地駅の手前の集落を呑み込んでいた。その時逃げてくる軽トラックが傍らを通り過ぎようとし、大声を上げて呼び止め乗せてもらい役場へ向かって逃げた。津波は役場の手前まで襲ってきた。間一髪であった。

その後この2人の警察官は任地に着任すると管内の行方不明者の捜索にあたった。

一方列車で待機していた乗務員たちは、ホームから海は集落に遮られ見えなかったが、15時40分頃近くの家屋根の上に水しぶきが上がっているのを目撃し、急いで跨線橋に駆け上がった。それを追ってあつという間に津波が駅に到達し、4両編成の後ろ2両が浮き上がり横倒しとなった木造平屋の駅舎もろとも流れていった。前2両も浮き上がり跨線橋に衝突して流れて行った。跨線橋は何とか倒壊せず持ちこたえた。続く第2波は、跨線橋の上まで達した。夜になって職場との連絡が取れたが救助はかなわず、寒さと間断なく続く余震の中跨線橋上で夜明かしをし、自力で避難所へ脱出した。

☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆

その震災当日アメリカの女性シンガーが日本ツアーのため日本へ向かう機上だった。15時半成田到着のところ30分予定が早まりよいよ着陸しようとする10分前に地震が発生した。しばらく成田上空を旋回するものの成田空港が閉鎖され、横田基地に着陸した。が、横田では入管ができず入管のため他の空港に向かわなくてはならず、名古屋や福岡も考えられたが最終的に行き先が羽田に決まったのは21時前であった。ようやくホテルにたどり着いたのは午前3時頃であった。ホテルの部屋のTVを点けてすさまじい状況になっていることを知った。

震災直後多くの海外アーティストのコンサートが中止になったりしている中、予定通り名古屋、東京、大阪のコンサートを完遂した。各会場には本人の希望で募金箱が置かれた。そして必ず日本に帰ってくるという離日した。

☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆

東日本大震災発生で石巻市立病院も大混乱に陥った。

石巻は、旧北上川河口に位置している。石巻市立病院はその河口近くの右岸に立地し、発生と同時に日頃の災害訓練通り直ちに院内に災害対策本部が設置され1階で災害医療のトリアージ体制をとった。が、15時25分に津波が襲来した。2階まで水没し、1階にあった自家発電装置が喪失し電源が落ち、通信手段も断たれた。患者・患者家族・職員約480人が孤立した。術場では胃全摘手術中で照明が落ちた。かろうじてモニターやレスピレーター、輸液ポンプは稼働して生命維持だけは保たれた。緊急閉腹が懐中電灯下で行われた。

暖房の無い夜を過ごした。2日目の朝石巻は雪景色であった。通信手段が無く冷たい泥水の中瓦礫をかき分け石巻市役所まで救助要請に人が出された。それを受けDMAT(disaster medical assistance team 災害派遣医療チーム)が4日目に到着し、2日ばかりで全員の救出が行われた。電子カルテが水没で使えず、医師たちは記憶で各患者さんの診療履歴を紙に書きだし、患者さんの体にそれをくりつけて送り出した。

尚震災時電子カルテのデータは山形市立病院と相互バックアップする体制ができていたため診療情報の保全ができていたのは幸いであった。

☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆

昨年末の12月10日の常磐線相馬・浜吉田間約23.2kmの運転再開の試乗に当日現地へ向かった。弾丸日程ながら有給休暇を取りその前日仙石東北ラインに開業以来二度目の乗車を行った。

仙台駅では仙石東北ラインの電車はすっかり日常の鉄道風景となっていた。

石巻へ行く途中、津波に被災し丘陵地に移設された野蒜(のびる)駅に途中下車してみた。同じく丘陵地に移設された仙台方の隣駅の東名駅から野蒜駅一帯は、新しい市街地の造成工事中である。開業時は人家の無い駅前の造成地の風景であったが、公共的な建物がいくつか営業をし始め、戸建住宅の建設も進められていた。数年後には駅前の風景が一変しそうである。

野蒜駅で発着する電車をしばらく眺めていると、石ノ森正太郎の作品のキャラクターがラッピングされた<マンガタンライナー>がやってきた。

旧北上川の石巻市内の中州をマンハッタン島に見立ててマンガとかけてマンガタン島と石ノ森正太郎が称したことに由来している。マンガタン島には、石ノ森正太郎のマンガミュージアム<石ノ森萬画館>がある。この施設も津波の直撃を受け長期間休館していたが現在は復活している。

野蒜から石巻に向かう途中矢本駅付近では車窓の右手に松島基地を望むことができる。ブルーインパルス所属基地であり津波により基地は浸水し、仙石線も浸水した区間である。

石巻駅は、現駅舎に建替えの際、石ノ森正太郎の作品キャラクターを多数配する意匠が施された。また石巻駅から



野蒜駅 マンガタンライナー

<石ノ森萬画館>までのマンガロードには等身大フィギュアが点在している。石巻駅入り口の脇に立つフィギュアの横に津波による浸水線が印されている。石巻駅周辺は約1m浸水した。



石巻駅ステンドグラス

仙石東北ライン開業の日石巻駅前に大型のビルの鉄骨が組み上がりつつあった。震災復興の住宅か商業ビルの建設かと思っていたのだが、今回訪れると完成していてそれが石巻市立病院である事に気が驚いた。

東日本大震災から1年後アメリカの女性シンガーは再び日本ツアーに来日した。シンディ・ローパーはこのツアーで初めてステージで日本語の歌を1曲披露した。それはペギー・マーチが昭和43年(1968)日本語で歌った山上路夫作詞・三木たかし作曲の〈忘れないわ〉。

♪ 忘れないわ あなたを
別れたあとも 胸に生きるわ
もしもふたたび 恋をしても
あなたに似ている ひとでしょう
忘れないわ I'll never forget you.
愛したひとよ 忘れないわ

被災した人々への応援と犠牲者への鎮魂の気持ちを込めた歌となった。

そのツアーの日程の合間にシンディ・ローパーは、音楽評論家の湯川れい子と被災から1年経った石巻に足を運んだ。その時、石巻の楽器店を訪れた。この楽器店は津波で1.7m浸水し売りもののピアノ約30台が被災した。それらの被災ピアノの修復作業の見学に訪れたのだ。シンディ・ローパーは、そうした修復被災ピアノの中の1台の購入を申し入れ、そのピアノの行き先は店主に任せた。店主は寄贈先として石巻市立病院を選んだ。



石巻駅ホームから望む石巻市立病院

被災した石巻市立病院は将来の津波の再来を勘案し同じ場所では再建されず石巻駅前の市の駐車場だった場所に再建された。とはいえ石

巻駅周辺も浸水地域であるため1階は駐車場で2階以上に病院機能が設けられている。昨年8月10日の新病院完成記念式典でシンディ・ローパー寄贈の被災ピアノが披露された。

☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆

さて常磐線相馬・浜吉田間再開通前日までの常磐線は、日暮里・竜田間、小高・相馬間、浜吉田・岩沼間の3区間の分割運行が行われ、小高・相馬間は両端で途切れていて孤立していた。不通区間には代行バスが運行し、連絡していた。相馬・浜吉田間の再開通で両端の孤立区間が解消し、竜田・小高間36.6kmが不通区間として残っている。

相馬・浜吉田間には、駒ヶ嶺、坂元、新地、山下の4駅があり、東日本大震災の津波で坂元駅駅舎と新地駅駅舎は流出し、山下駅駅舎は流出はしなかったが損傷が激しく解体された。この区間では線路も津波で大きくめくれ上がって流出した箇所も多かった。

新地駅で津波に襲われた224M普通原ノ町行きの後を走っていた札幌貨物ターミナル駅発隅田川行き貨物第92列車は、浜吉田・山下の中間地点付近で地震に襲われた。停止指令で停止したが直後から通信が途絶えた。列車停止後20～25分後に津波が到来し、運転室の足下まで浸水し、牽引していた20両の貨車は津波に流されてしまい重たい電気機関車のみ脱線せずにとどまった。運転席から目の前を家や車が流されているのが見えた。近くの防災警報が更に大きな10m級の津波が来るという放送を流しているのを聴き、少し海水がひいたところで運転士は脱出を決意した。冷たい泥だらけの海水に首までつかりながら歩いて近くの流されずにあった民家の2階に逃げこんだ。緊張と寒さの中一睡もせず夜明けを迎え、明るくなってその民家を脱出し避難所へたどり着いた。



新地駅より上野方を見る

被災した駅周辺の家並みも流出がはなはだしく、鉄道の復旧は住民の震災復興と一体になった形が望まれた。そうした復興計画と合わせて駒ヶ嶺・浜吉田間14.6kmは、内陸側へ在来線より最大1.1km移設し再開となった。移設区間の43%は高架化された。

仙台発原ノ町行きに乗車し、この再開区間へ向かった。5年9ヶ月ぶりに仙台から原ノ町へ行く列車は、東北本線を南下し、岩沼駅から左に分岐して常磐線に入っていく。



普通原ノ町行 仙台駅

平成25年(2013)末原ノ町へ訪れた時には浜吉田で途切れていてその先の線路には雑草が生い茂っていた。その先へ乗車した列車は進んでいった。浜吉田を発車してしばらくして移設した新線区間へ入った。高架区間からは車窓から見通しが効きこれまでの地上線とはまったく異なった車窓風景が展開。遠くに太平洋が見えていた。

これまでの旧駅はいずれも木造平屋の駅舎であったが、山下・坂元両駅は高架駅となり、新地駅は約4m盛土した上に建てられた。津波が襲来した時、常磐線より海側の地区から逃げ出した人々は踏切で立ち往生した。踏切は外部電源が落ちると遮断機が降り、バッテリーで警報機が鳴り続けるように設定されている。遮断機のバーを持ち上げて車を通し内陸側へ避難した。新線区間は踏切を解消し、津波襲来時の避難の障害に鉄道がならない設計となっている。

新地駅内陸側の駅前広場周辺に一部建物が建ちはじめていたが、新市街地整備はこれから。周辺は平均4mの盛土された広大な更地が広がっていた。当日は乾燥していて好天ながら強風が吹き荒れ、その度に土煙が巻きあがって大変であった。

新地駅袴線橋は一般的な袴線橋と異なりざっくりとガラス窓が広くとってあった。一般的な袴線橋の窓は明りとり程度の小さなものだったり、あるいは窓そのものが無かったりする。新地駅の袴線橋からはその大きな窓から盛土された広大な更地の先に太平洋が見えていた。津波の襲来を確認するための見晴らし台の意味があるようだ。新しい新地駅に見学に来た地元の人々は、その窓の前に立ち尽くし海をじっと見続けていた。

新地から更に南下すると新線区間が終わり駒ヶ嶺駅に至る。駒ヶ嶺駅は木造駅舎が健在であった。

原ノ町からまた更に南下していくと小高駅で列車は折り返しとなる。小高駅から線路沿いに南へ5分くらい歩くと常磐線のレールの上に木製の車止めがあった。竜田・小高間36.6kmは、福島第1原子力発電所事故の避難指示解除準備区域となっていて不通区間である。歩いていると空中線量を測定している作業服姿の2人組とすれ違った。



新地駅袴線橋窓

今年3月31日帰還困難区域を除き浪江町の避難指示が解除され、浪江・小高間8.9kmが、4月1日より運行再開となった。

今後今年10月頃竜田・富岡間6.9kmが運転再開見込みで、帰還困難区域を跨ぐ富岡・浪江間20.8kmは平成31年度(2019)中に運転再開の見込みで、その区間が再開すればようやく常磐線全線復旧となる。

☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆

常磐線相馬・浜吉田間運転再開の日、新地駅では安倍首相も出席し運転再開記念式典が開催された。この記念式典には、新地駅で乗客の避難誘導に当たった2人も出席していて、首相と面会しねぎらいの言葉をかけられた。それを報じる記事の2人の肩書に驚かされた。1人は福島県警本部災害対策課巡查部長に、もう1人は郡山消防署消防士になっていた。警察官から消防士に転職し、救急救命士の資格を取得している。未曾有の体験は人生にも大きな影響を与えている。2人の今後の健闘を祈りたい。



新地駅



山行知(さんこうち)

第2回 コバノミツバツツジ・井原山～雷山縦走

大魔王YJ

早くも山登りに興味がある方には大好評！？との声が聞こえてきた『山行知』であります。連載2回目となる今回は、コバノミツバツツジを求めて、井原山(いはらやま・いわらやま)から雷山(らいざん)までを縦走してきましたので、ご報告させていただきます。

『コバノミツバツツジ』、聞いたことのない方には、なんかわけのわからない長い名前かもしれませんが、これを漢字で書くと、『小葉の三葉躑躅(つつじ)』となります。つまり、小さな三つ葉が特徴のツツジなのです。後述する登山口の『古場岳(こばだけ)』は関係ありませんので、悪しからず！

例年、ちょうどゴールデンウィークの時期になると、井原山から雷山にかけての縦走路は、コバノミツバツツジが咲き誇り、辺り一面が美しいピンク色に染まります。その期限定でしか見られないとなると、やはりみなさん見に行きたくなるもので、多くの登山客で賑わいます。

井原山ならびに雷山は、佐賀県と福岡県の境界に位置し、脊振山系に属します。そのため福岡側(北側)からも佐賀側(南側)からもそれぞれ趣の異なる違ったルートで山登りが楽しめます。ただし、概して福岡側からのほうが急峻であり、登山口の場所も考慮すると、佐賀側から登るほうが比較的短時間で楽に山頂にたどり着けます。今回は、縦走路歩きをメインにするため、佐賀県古場岳登山口からスタートすることにしました。

ちなみに、この登山口に行くには、福岡から車だと、国道263号から有料道路を通らずに三瀬峠へ向かい、その頂上から西側に入る道路を通っていくと便利です。

この日、8時半前に登山口付近の駐車地に到着。登山開始から1時間以内で井原山の山頂(標高982m)に立つことができました。登山口自体が標高620m地点にあることから、こうやって簡単に行けちゃうんです(^_^)

山頂までの斜面には、コバノミツバツツジのピンク色が要所々々に見られ、縦走路がコバノミツバツツジロードになっていることに期待が高まりました(^o^)/

ところが…。今年は花が咲くのが遅いようで、山頂付近のコバノミツバツツジはまだ2分咲き程度。今回の目的からすると、ちょっと残念でした(^_^;) 蕾のふくらみ具合からすると、あと1週間後遅く来れば、ほぼ満開になっていたと思われます(他の方からの情報だと実際そうだったようです)。



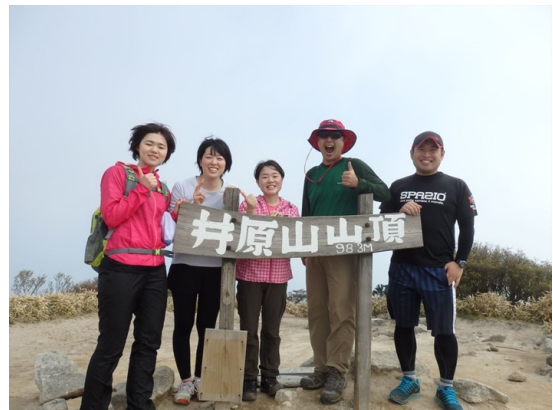
井原山～雷山(コバノミツバツツジロード)



コバノミツバツツジ



コバノミツバツツジ



井原山山頂(982m)

山頂でしばし休憩したり、記念写真を撮ったりしたあとは、いよいよ雷山へと向かいます。縦走路は、コバノミツバツツジロードにはなっていませんでしたが、あちこちに春の草花が見られ、それらを眺めながら楽しんで歩くことができました。

また、井原山山頂に着いたときは、空は若干雲に覆われており、眺望はあまり良くなかったのですが、縦走路を歩いている間、次第に晴れ間が広がり、福岡側、佐賀側、それぞれの景色を楽しむことができました。

この縦走路はホントに気持ちよく歩くことができるのでおすすめです♡

なお、この時期は多くの方が訪れることから、縦走路のクマザサを地元ボランティアの方々が刈り取ってくれているそうです。こうした方々のご尽力によって、我々は楽しませてもらっておりますので、本当に感謝です！

井原山を後にしてから1時間20分ほどで雷山の山頂(標高955m)に到着しました。この間の距離は約3.3kmです。

時刻は11時過ぎで、ほどよく歩いたせいか、お腹が空いてしまいました。ランチタイムに突入です！山頂で食べたのは、某メーカーの新作のカップ麺でした(^_^)/

ここで筆者のこだわりを一つご紹介します。山登りしていると、汗をたくさんかき、脱水や熱中症を避けるためにも適時水分を補給しなければなりません。筆者は汗といっしょに漏出したミネラル分を補うために、カップ麺のスープは全部飲み干します！普段は塩辛くて全部飲み干せませんが、山登りのときは意外と全部スイスイ入ってっちゃいます。残ったスープをその辺に捨てるのはよくないので、一石二鳥なんですよ～(^_-)-☆



縦走路の先に雷山が見えた！



気持ちのいい縦走路



雷山山頂(955m)



楽しいランチタイム♡

ちょうど正午近くになり、雷山の山頂は、あれよあれよと多くの登山客でいっぱいになってきました。我々は適度に休憩もできたので、そろそろ下山することにしました。

今回のルートは、同じ道をピストンせずに、駐車地まで周回して戻れることも、おすすめする理由の1つです(^_^)



下山の際、ちょっとしたヒヤリ事象があったのでご報告！途中、おしゃべりに夢中になって、いつの間にか本来歩くべきルートから逸れてしまっていました。幸い、すぐに気づいたのでよかったのですが、気を付けないと反省です(>_<)

下山開始から約1時間で駐車地に到着。お疲れ山でした!(^^)!

今回、休憩込みの活動時間は、4時間23分。歩行距離は、8.3kmとなりました。

このあとは、三瀬温泉やまびこの湯で汗を流し、福岡への帰路、三瀬の地鶏食堂に立ち寄って、栄養補給してから帰りました(=^・^=)

身体も、心も、そして、お腹も満足できて、なんだか、すごく有意義な1日になりました！



駐車地に戻ってきました。お疲れ山(さん)！

同行者の感想

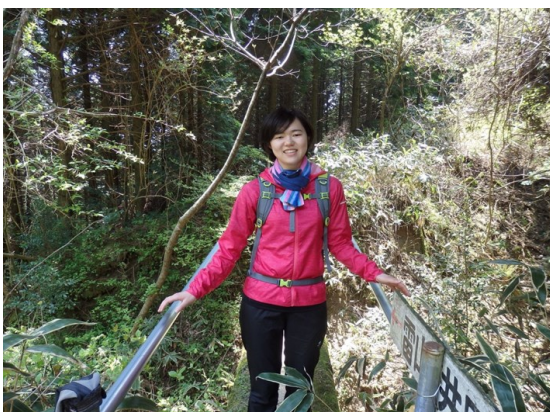
★UAさん・・・井原山登山感想

この日は、日差しは暖かく風はひんやりと冷たい春らしい気候に恵まれた山登り日和でした。山登りの目的だった三つ葉ツツジという花にはまだ少し肌寒かったようで、満開とはいかず残念でしたが、隊長が女性でも登れるコース取りをして下さり、終始楽しく自然を満喫することができました。山登り後の、温泉に浸かった時と、地鶏の焼き肉を頬張った時の幸福感は1週間の疲れを吹き飛ばしてくれ、最高の休日になりました！



元気ハツラツなUAさん～944mピークにて

★IFさん・・・井原山～雷山(コバノミツバツツジロード)を超えて



まだまだ余裕なIFさん

今回の登山を振り返ってまず思うことは絶好の登山日和だったなということです。4月最終日、気温も最適な快晴の1日でした。さらに登山路も初心者には程よい起伏で、終始周りの景色や会話を楽しみながら歩くことができました。1番の目玉としていたツツジは少し早かったようで満開ではありませんでしたが、所々咲いている部分が見られました。一般的なツツジと違い、背が高く、人の目線の位置に花を咲かせていました。井原山～雷山へ向かう縦走路ではツツジが群生しており、満開であれば一面ピンクのツツジトンネルをくぐることもできるはずですが、満開のツツジを見れなかったのは少し心残りではありましたが、最高に楽しい1日となりました。大魔王YJさん、ありがとうございました。

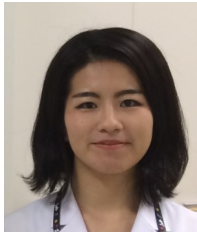


コバノミツバツツジ



山ポーズ！

新人紹介(検査室)

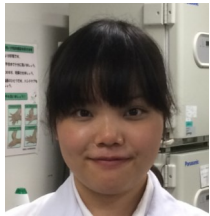


伊藤 真実

4月から3Fハートセンターに配属されました。週2日ほど2F生理機能検査室でもお世話になっております。学生の時に臨地実習でお世話になった九大病院に勤務することになりとても嬉しいです。社会人1年目で未熟な面も多く、ご迷惑をおかけすることもあると思いますが精一杯頑張りたいと思います。趣味は4歳から続けているダンスと節約で始めた毎日のお弁当作りです。最近では隙間時間にちょっとした筋トレをするのがマイブームです。よろしくお願いします。

片桐 萌奈

4月から新しく検査部で勤務させて頂いております。検査技師としても社会人としても1年目でまだまだ未熟ですが、早く業務に貢献できるように日々勉強していきたいと思っています。学生時代は野球部のマネージャーをしており、プロ野球を観戦することが好きです。好きな選手は新井貴浩選手です。これからご迷惑をおかけすることもあるかと思いますが、よろしくお願いいたします。



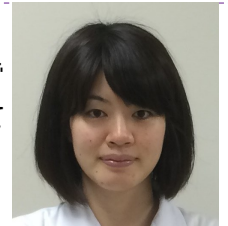
片山美希

毎日が楽しいというおめでたい頭の持ち主こと片山美希と申します。熱心で親切な先輩方のもと、引き続き楽しい人生を送ることができており感謝の日々でございます。憧れている方は5代目坂東玉三郎さん。私も仲まいの美しい人でありたいと思っています。

いつも元気に笑顔を大切に、精進してまいります。

前田 茜

4月から検査部で勤務させて頂いております。新しい環境の中で戸惑うことも多々ありますが、少しでも早く先輩方のようにお仕事ができるよう日々精進していきたいです。学生時代は軽音楽部でギターをしておりました。音楽とお酒が好きです。これからどうぞよろしくお願い致します。



榎 恭佑

4月より検査部配属になりました、榎 恭佑と申します。

福岡に来る前は、神奈川県湘南鎌倉総合病院で10年間勤めていました。私がなぜ、九大検査部を目指したかと申しますと、以前の病院で標準化の1つの指標である、JCI認証(Joint Commission International)を受けており、九大検査部はISO取得と臨床検査標準化を進めており、興味がありました。学会で康先生、堀田技師長と話をさせて頂き、臨床検査の最先端を走る九大病院で働きたいと決意しました。今は新しい環境で全く余裕のない状態ですが、これから1歩1歩確実に進んで行きたいと思っています。息抜きはラーメンを食べに行くことです。美味しいお店を紹介して頂ければ幸いです。どうぞ宜しくお願い致します。

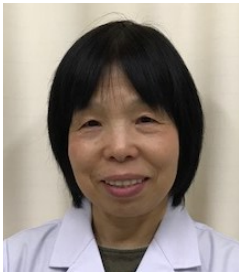
新人紹介(別府病院)

大森 名起

4月より、別府病院の検査室で勤務しております。検査の知識も乏しく日々勉強の毎日ですが、少しでも早く1人の検査技師としてお役に立てるよう、別府病院の先輩方の知識や技術を吸収したいと思っています。学生時代はサッカーをやっておりましたので、サッカーはもちろん主に球技をやったり観戦したりするのが好きです。今年は別府ということもあり、観光雑誌に載っている温泉に入りまくりたいと思っています。外見だけでなく大きな人間になれるよう精進して参りますので、皆様これからよろしくお願いいたします。



新人紹介(SASセンター)

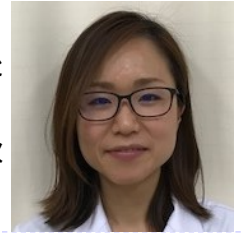


口石 みつ子

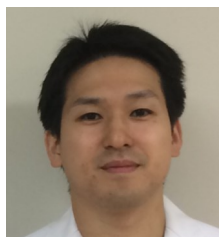
3月より週1回月曜日午後、SASセンターでPSG解析を担当させていただいています。睡眠検査歴は十数年ですが、原土井病院で検体検査業務全般及び管理業務を兼任しながらの2000例ほどの経験ですが、若い時の様には出来ません。現在は健診部に所属していますが、このたびPSG解析業務のお話をいただき感謝しています。多くの症例を経験しながら、今までに得た知識に新しい情報を加え、業務に邁進していきたいと思ひます。マイブームは健康法、ストレッチ、登山を始めました。趣味はドライブ、和装でお出かけです。

高木 美幸

3月より週3日午前中のみですが、PSG解析担当として睡眠時無呼吸センターに勤務しています。卒後北10F病棟で技師として5年間働き退職したのですが、縁あって再び九大病院にお世話になっています。時間は短いですが、最大限お役に立てるよう精進していきたいと思ひております。趣味は海遊び・ゴルフ・飲酒です。よろしくお願ひいたします。



新人紹介(研究室)



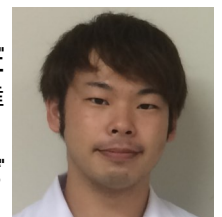
森崎 隆史

博士課程2年目の今春より、臨床検査医学分野で研究させていただくことになりました。昨年まで呼吸器内科医として働いておりましたが、心機一転、研究一筋に精進して参る所存です。今は基本的な実験手技の習得で精一杯ですが、新しい世界を覗き見ることを楽しみに、一步一步進んでいきたいと思ひます。研究テーマは「ミトコンドリアと免疫」です。皆様にご迷惑おかけすることも多々あるかと思ひますが、ご指導・ご鞭撻のほどよろしくお願ひ致します。趣味は柔道とドライブです。

稲富 鉄平

今年度より、臨床検査医学分野にてお世話になっております。ミトコンドリア という分野に関してはまだまだ知識が浅く、新たに学ぶことばかりですが、一生懸命研究と勉学に取り組み、早く研究室の皆様と同じ舞台に立てるよう頑張ります。

趣味はテニス、写真撮影、バイクのツーリングです。これからたくさんご迷惑をお掛けすると思ひますが、どうぞよろしくお願ひ致します。



十島 崇嘉

4月から臨床検査医学教室にて研究をさせて頂いております、修士1年の十島崇嘉です。本学の保健学科を卒業し、専攻は検査技術科学でした。研究室ではミトコンドリアタンパクについての研究をさせて頂いております。出身は鹿児島で寒いのは苦手です。写真に撮りたくなるような、日常のふとした瞬間の綺麗な風景を探ることが好きです。研究に関しては素人ですが、精一杯頑張っていこうと思ひますのでどうぞよろしくお願ひいたします。




クオンティフェロン採血容器変更について

2017年5月10日(水)よりクオンティフェロンの採血容器を現在の専用採血管3本より、専用ヘパリンリチウム管1本6 mlへと変更いたします。

従来の方法では採血量と採血順序の指定がありましたが、新たな方法では1本の採血管に採血していただくのみとなります。ただし、採血量が少ない場合は検査不能となりますので、**規定量(6 mL)の採血**をお願い致します。

また、採取後の検体の安定性については、従来は16時間以内に培養を開始しなければならなかったものが、冷蔵保存条件下(2~8℃)で最大32時間保存可能となります。ただし、室温放置した場合は検査結果に影響を及ぼしますので、**採取後は氷水につけ、速やかにご提出ください。**

検査所要日数や検査方法、結果報告様式に変更はありません。

	旧	新
採血容器	専用採血管 × 3種 (灰、赤、紫)	専用ヘパリンリチウム管 × 1本
検体の安定性	16時間以内に17~27℃で培養	冷蔵条件(2~8℃)で最大32時間保存可
		

検査部検体検査受付部門(内線:5771)



編集後記

梅雨も明け爽やかな時期になりました。台湾での研修は大変貴重なものとしており、今後の検査部、九大病院における取り組みに役立つことと思われます。韓国での貴重な発表の機会を得た技師さんも大変な刺激を受けたと伺っています。今後の国際的な活躍を期待しています。白いかもめにかける想い、実際、現地からのレポート形式ですが毎回貴重な報告ありがとうございます。白いかもめを見て鉄道マニアになったという方もいるそうです。山行知さんの山にかける情熱、ますますヒートアップしていますね。そろそろ、富士山登山でも目指しましょう。すでにある方が目指しているかも？ 内海健